

299 Flosequinan の肺血管床拡張作用

田中 健、相澤忠範、加藤和三、
岡本淳（心臓血管研究所）

Flosequinan (F) は血管拡張作用があり鬱血性心不全の血行動態を改善することが知られている。今回鬱血性心不全16例(NYHA 2-3, EF 45±18%)においてFを100mg投与し投与前と投与後2時間のTc99m-MAA 肺血流像を比較した。定量評価には上肺野と下肺野カウント比(U/L)を用いた。下肺野の血流が減少し始めた8例中6例で下肺野血流の改善を認め(1.10±0.08→0.79±0.11*) Fは肺底部のvasoconstrictionを改善することが示された。また下肺野の血流が保たれている8例でも肺血流の改善を認めた(0.83±0.08→0.69±0.08*)。(p<.0001)

Fは直接肺血管床に作用してこれを拡張するがこの拡張の程度は一樣ではなく部位によって異なることが明らかになった。

300 経皮的僧房弁交連切開術(PTMC)前後における

肺血流分布の変化 — デジタル肺血流像による評価 —
北原公一、鈴木紳、大滝英二、大西哲(神原記念病院内科)

僧房弁狭窄症(MS)に対するPTMC前後で肺血流分布の変化を^{99m}Tc-MAA肺血流シンチ(Digital Perfusion Images; DPI)により検討した。'89年6月から'90年4月までに当院でPTMCを施行したMSの患者中31例(平均年齢51.9才)に対し、PTMC前日および施行約1カ月後に^{99m}Tc-MAA555MBqを静注し立位でDPIを撮像した。術前の肺血流は、A群:下肺野主体型4名(PA41.3mmHg LA25.3mmHg)B群:全肺野均等型22名(PA44.4mmHg LA23.0mmHg)C群:上肺野主体型5名(PA57.0mmHg LA26.2mmHg)に分類されPA, LA圧の上昇に伴い上肺野の血流が増加していた。術後各群で血行動態は改善し、B群6例、C群5例でDPI上明かな改善を認めたが、改善例と非改善例の間には血行動態上有意な差はなく、肺血流の改善には血行動態以外の因子の関与が示唆された。

301 血中ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドと心機能指標との対比検討

中川富夫、清水光春、河野良寛、安井光太郎、竹田芳弘、
平木祥夫(岡山大・放)、永谷伊佐雄(同・中放)、荒木一博、妹尾嘉昌、寺本 滋(同・二外)

各種心疾患40例について、血中ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(hANP)を測定し、RI心プール法、心カテテル法より求めた心機能指標との対比検討を行った。hANP高値群(20例)では、正常群(20例)に比し左室駆出分画(LVEF)および心係数(C.I.)が有意に低値であったが、hANP値とLVEF値、C.I.値との間に有意な相関は認められなかった。また、右室駆出分画(RVEF)は、高値群と正常群との間に有意な差はみられなかった。血中hANP値は、右心機能よりも左心機能をより強く反映するものと考えられるが、重症度の指標としてはさらに検討が必要と思われる。

302 心疾患(虚血性心疾患および心不全)における

甲状腺ホルモンについて

川原林千津子、西村恒彦、今井行雄、佐合正義、
鄭 明子、林 真(国循セン放診部)
西大條靖子(同内科)

重症疾患にてT₃が低値であることは既に報告されているが、重症心疾患のFT₃、FT₄、TSH値の報告は少ない。そこで狭心症53例(AP群)急性心筋梗塞35例(AMI群)および心不全20例(CHF群)を対象とし、発症4日以内の値を測定し比較した。AP群、AMI群、CHF群でそれぞれ、FT₃値正常値未満(16%、34%、80%)FT₄正常値未満(11%、9%、10%)また、FT₃、FT₄共に正常値未満でTSH高値(6.0 μU/ml以上)はAP群3例、TSH正常範囲内(0.5~6.0 μU/ml)は各群1例ずつ、TSH低値(0.5 μU/mlより低値)はAP群1例であった。FT₃値が低値を示すものは心不全群に高頻度にみられた。